

特集・逝ける映画人を偲んで (1976~77)

映画史に光彩を放った秀作の創造に大きく貢献し、近年(1976~77年)惜しまれつつ逝去された内外の映画監督、脚本家ならびに俳優の方々19人を偲んで、それぞれの代表的作品によ

り生前の業績を回顧すること、ここに「特集・逝ける映画人を偲んで」を企画開催いたします。ひろく映画研究家、愛好者の方々の御鑑賞をおすすめします。 フィルムセンター

日曜・祝日は休館 毎日午後3時・6時15分開演。* 8月20日(土)上映に限りヒル・ヨル全館入替制。
*先着順にて定員239名に達し次第入場を締め切ります。(開館は12時30分)

★9月3日上映の「天井桟敷の人々」は1時・5時開映。
一般200円・学生140円・小人100円

期 日	題 名	製 作 年	監 督	出 演 者
8月13日(土)	地の果てを行く (100分)	仏・1935	J・デュヴィヴィエ	ジャン・ギャバン、アナベラ (昭11、キネ旬ベスト・テン5位)
15日(月)	望 郷 (95分)	仏・1936	〃	〃、ミレイユ・バラン (昭14、キネ旬ベスト・テン1位)
16日(火)	殺人鬼に罠をかけろ (120分)	仏・1957	ジャン・ドラノア	〃、アニー・ジラルド、ジャン・ドザイ
17日(水)	{ 白衣の佳人〈部分〉(10分) 太陽の子 (90分)	日 活・1936	阿 部 豊	入江たか子
18日(木)	細 雪 (140分)	東京発声・1938	〃	大日方伝、逢初夢子、三井秀男 (キネ旬ベスト・テン10位)
19日(金)	紅の拳銃 (86分)	新 東 宝・1950	〃	花井蘭子、轟夕起子、山根寿子、高峰秀子、香川京子 (キネ旬ベスト・テン9位)
20日(土)	{ ヒル3時 武装強盗団 (102分) ヨル6時15分 愛は光とともに (105分)	日 活・1961	牛 原 陽 一	赤木圭一郎、笹森礼子、白木マリ
22日(月)	栄冠涙あり (無声・83分)	英・1957	ジャック・リー	ピーター・フィンチ、ロナルド・ルイス、モオリーン・スワンソン
23日(火)	熊の出る開墾地 (無声・85分)	不二映画・1931	デヴィッド・ミラー	ジョーン・クロフォード、ロッサノ・ブラッツィ、ヒーザー・シアース
24日(水)	雁 来 紅 (101分)	不二映画・1932	鈴木重吉	鈴木伝明、英百合子、月田一郎、池上喜代子
25日(木)	{ ちよいと出ました三角野郎 (無声・41分) マダムと女房 (57分)	入江プロ・1934	〃	渡辺篤、鈴木伝明、英百合子、鳩山嶺子、池上喜代子
26日(金)	伊豆の踊子 (無声・93分)	松 竹・1930	佐々木 恒次郎	〃、入江たか子、伊達里子、菅井一郎、見明凡太郎
27日(土)	西鶴一代女 (137分)	松 竹・1931	五 所 平之助	〃、花岡菊子、坂本武 (蒲田名物ナンセンス喜劇)
29日(月)	{ アンリ・ラングロワの横顔 沐浴 (74分)	松 竹・1933	五 所 平之助	〃、田中絹代、伊達里子、横尾泥海男 (キネ旬ベスト・テン1位)
30日(火)	恐怖の報酬 (130分)	新 東 宝・1952	溝 口 健 二	田中絹代、大日方伝、小林十九二、若水絹子、竹内良一 (キネ旬ベスト・テン9位)
31日(水)	悪魔のような女 (118分)	仏・1934	V・トウルヤンスキー	〃、三船敏郎、山根寿子、宇野重吉 (キネ旬ベスト・テン9位)
9月1日(木)	{ <特別上映> 関東大震災火災 (無声・55分) 愛染かつら・総集篇 (87分)	仏・1952	H・ジョルジュ・クルーゾ	シネマテーク・フランセーズ創設者アンリ・ラングロワ
2日(金)	できごと (105分)	仏・1954	〃	マルセル・シャンタル、ジャン・ヴォルムス、アレクサンドル・リニョー
3日(土)	★天井桟敷の人々 (185分)	文 部 省・1923	野 村 浩 将	イヴ・モンタン、シャルル・ヴァネル、ヴェラ・クルーゾ (昭29、キネ旬ベスト・テン2位)
5日(月)	浪人街 (90分)	松 竹・1938	ジョゼフ・ローゼー	シモーヌ・シニョレ、ヴェラ・クルーゾ、ポール・ムーリス
6日(火)	無防備都市 (103分)	英・1967	マルセル・カルネ	撮影・白井茂ほか特設カメラマン (関東大地震44周年回覧)
7日(水)	戦火のかなた (125分)	仏・1945	マキノ 雅 弘	岡村文子、田中絹代、上原謙、佐分利信、桑野通子
8日(木)	生さぬ仲 (無声・78分)	松 竹・1957	R・ロッセリーニ	スタンリー・ペーカー、ダーク・ボガード (昭44、キネ旬ベスト・テン7位)
9日(金)	ジークフリード (音響版・日本字幕85分)	伊・1946	〃	脚本・ジャック・プレベール、ジャン・ルイ・パロー、アルレッティ、(昭27、キネ旬ベスト・テン3位)
10日(土)	M (105分)	松 竹・1932	成 瀬 巳喜男	近衛十四郎、藤田進、河津清三郎、北上弥太郎
12日(月)	月世界の女 (無声・120分)	独・1923	フリッツ・ラング	アンナ・マニャーニ、アルド・ファブリーツィ (昭25、キネ旬ベスト・テン4位)
13日(火)	三文オペラ (112分)	独・1929	〃	マリア・ミーキ、ガー・ムーア (昭和24、キネ旬ベスト・テン1位)
		独・1931	G・W・パブスト	筑波雪子、岡田嘉子、奈良真養、岡謙二、結城一郎

Jean Gabin 1904年5月17日パリ郊外のメリエールに芸人の子として生まれる。職業を転々とした後ミュージック・ホールの舞台に立ち、31年“Chacun sa chance”で映画界入りした。「上から下まで」(33・パブスト)、「白き処女地」(34・デュヴィヴィエ)で頭角を表わし、「地の果てを行く」(35)、「我等の仲間」(36)、「望郷」(36・デュヴィヴィエ)、「大いなる幻影」(37・ルノワール)、「霧の波止場」(38・カルネ)等の30年代フランス映画の代表作に出演、国民的スターとして名声を博した。戦後も「現金に手を出さぬ」(53)や「ヘッドライツ」(55)など、暗黒街物や渋い中年役にますますその本領を発揮し、「地下室のメロディー」(62)、「シシリアン」(69)、「暗黒街のふたり」(73)でもその健在ぶりを示し、ドロンやベルモンド等の当代の人気スターのめざす存在となった。1976年11月15日死去。享年71歳。

阿部 豊 1895年2月2日、宮城県桃生郡大曲の農家に生まれる。1912年、弟とともに渡米して演劇学校に入学、雪洲の書生となる。その後 Jack Abbe と改名して脇役で異彩を放ち、1925年帰国して日活に入社、第一作「母校の為に」を発表、翌26年の「足にさわった女」で一躍その名を高めた。ハリウッド仕込みのモダンでスマートな演出が目ざされ、日活の第一線監督として活躍した。戦時中は「燃ゆる大空」(40)、「南海の花束」(42)などのスペクタクル映画に力量を示し、戦後の主な作品には「細雪」(50)、「青春怪談」(55)などがあり、「いのちの朝」(61)を最後に映画界を引退。1977年1月3日心不全のため死去。享年81歳。

牛原 陽一 1924年3月25日牛原彦彦監督の長男として熊本に生まれる。慶応大学卒業後大映に入社、54年に日活に転社して田坂具隆監督に師事、58年「野郎と黄金」で監督としてデビュー、「実いまだ青し」(山と谷と雲) (59)、「鉄火場の風」(天下を取る) (60)、「堂々たる人生」(61)、「渡り鳥故郷へ帰る」(62)、「赤い靴とろくでなし」(63)、「さすらいの賭博師」(64)など、日活青春映画の黄金時代を支えた。1977年2月7日死去。享年53歳。

Peter Finch 1917年9月28日、ロンドンに生まれ、間もなくオーストラリアに移住してラジオ・演劇界に入り、47年“A Son is born”で映画界入りし、翌年イギリスに招かれてユレーカの岩」に出演した。L・オリヴィエの指導で舞台に立つ一方、「尼僧物語」(58)、「女が愛情に渴くとき」(64)、「遙か群衆を離れて」(67)、「日曜日は別れの時」(72)などの渋い演技で長年スターの座にあったが、遺作となった「ネットワーク」(76)ではついにアカデミー主演男優賞を獲得、その栄光を知ることもなく77年1月14日急逝した。享年59歳。

Joan Crawford 1906年3月23日、テキサス州サン・アントニオに生まれる。ウエイレスやコーラス・ガールを経てレヴェー団に入り、ルシル・ル・スールの芸名で「美人帝国」(25)の端役に映画界入りし、翌年の「古着屋クーガン」で注目され、芸名募集で決った現在の名で「三人の踊子」に出演してスタ

大女優ベック・デュヴィスと共演の「何がジェーンに起ったか？」で見事な健在ぶりを示した。56年にペプシ・コーラの社長アルフレッド・スケイルと4度目の結婚をし、59年に死別したもの、ずっと同社副社長の地位にあった。1977年5月10日逝去。享年71歳。

鈴木 重吉 1900年6月25日東京生まれ。明治大学在学中より写真部で活躍、23年松竹蒲田に入社し、26年には鈴木伝明主演の「土に輝く」で監督としてデビュー。30年に「何が彼女をそうさせたか」で傾向映画の魁となり、翌31年には伝明、高田稔、岡田時彦と共に松竹を脱退し、不二映画を設立した。戦時中は記録映画を数多くとり、晩年は映画著書や写真集の出版が相ついで。1976年10月8日死去。享年76歳。

渡辺 篤 1898年4月9日東京生まれ。オペラ俳優から映画界入りし、マキノ・プロ、東亜キネマを経て松竹に転じ、蒲田調といわれた小市民映画や下町喜劇に活躍した。その独特な風貌と飄々とした演技で楽しませ、戦後は名俳優として数多くの作品に出演、特に黒沢監督作品での脇役に徹した名演技は忘れ難いものがある。1977年2月17日死去。享年78歳。

田中 絹代 1909年11月29日下関生まれ。12歳の時琵琶を習ってその天才ぶりをほめられ、13歳の時大阪に出て「少女琵琶歌劇」に出演、栗島すみ子主演の映画「虞美人草」を見て感激し、映画界に入る動機となった。24年松竹下賀茂に入社し、野村芳亭の「元禄女」で銀幕にデビュー、27年には五所監督の「恥しい夢」で主演女優となり、純情可憐な容姿で松竹の看板女優となっていた。31年の日本最初の本格的トーキー映画「マダムと女房」に抜擢され、新しい時代に対応できずに没落していく女優の中でトップ女優の座を守り「愛染かつら」では国民的ヒロインとなるほどだった。戦後は演技派女優への道を歩み続け、成瀬、小津、溝口、五所、木下、市川等の巨匠の作品に出演し、国内の演技賞を数多く獲得し、国際的にも知られた数少ない女優の一人となった。又、長篇劇映画の女流監督第一号として「恋文」(53)や「お吟さま」(62)など6作品を残している。1974年熊井監督の「サンダカン八番娼館・望郷」では国内の主演女優賞を独占し、翌年ベルリン国際映画祭でも女優賞の栄冠に浴した。半世紀近い間トップ女優であり続けたことはまったく驚異に価するが、1977年3月21日死去。享年67歳。

Henri Langlois 1914年11月13日トルコのスマイルに生まれる。幼少の頃から映画に興味を示し、層屋に売られた初期映画のフィルムを買い集め、35年には監督のジョルジュ・フランジュと共に映画サークルを作り、無声映画の保存に一層の力を注ぐようになった。翌36年、スポンサーを得て積極的にフィルムを買いあつめ、映画図書館ともいえる「シネマテーク」を創設、第二次大戦中はドイツ軍のバリ占拠にもめげず多数のフィルムを隠し守り通した。戦後は政府の助成金を得て《シネマテーク・フランセーズ》が創設されて事務

力となった。60年代に世界を席巻したフランスの《ヌーヴェル・ヴァーグ》は、まさにシネマテークから生まれ育った映画芸術の運動であったことは周知の通りである。また「バリ五月革命」を契機として、68年に政府から突然のラングロワの事務局長解任が報じられた時、フランス映画人のみならず、チャップリン、ヴィスコンティ、黒沢等の全世界の映画人から抗議の声があがって政府を屈辱させたことは余りにも有名である。74年4月、第46回アカデミー賞の授賞式に於いて、映画を作らなかつた人に初めてオスカが贈られた。その人こそアンリ・ラングロワであった。巨視的な眼で映画を愛し、自ら映画気狂いと称した彼の業績こそ、映画を愛する者の手本であり、フィルム・ライブラリアンの偉大な師であった事を示して余りあるが、77年1月13日心臓麻痺のため急逝。享年62歳。

Victor Tourjan 1891年ウクライナのキエフに生まれる。スタニスラフスキーに師事してモスクワの諸劇場の舞台にたち、1914年からロシア映画の演出を手がけたが、ロシア革命勃発とともにフランスに亡命、20年からフランス映画の監督を始めた。サイレント映画時代の終り頃からドイツ映画やチェコスロヴァキア映画の演出を手がけ、第二次大戦後はイタリア映画やユーゴスラヴィア映画も監督するといった、国際映画人でもあった。1976年8月13日死去。享年86歳。

Henri - Georges Clouzot 1907年11月20日ドゥ・セーブル県ニオール市に生まれる。政治家秘書、ジャーナリストを経て28~30年には映画批評を書き、31年には「播ひひの一夜」などのシナリオを執筆、ドイツではアナトール・リトヴァクやE・A・デュボンの助監督をつとめ、42年に監督としての第一作「犯人は21番に住む」を発表した。以後、「密告」(43)、「犯罪河岸」(47)、「情婦マノン」(48)、「恐怖の報酬」(52)、「悪魔のような女」(54)など、サスペンスに富んだ題材を迫力ある演出で映像化し、〈フィルム・ノワール〉の伝統を継承するとともにフランス映画界に新風を吹き込んだ。1977年1月21日死去。享年69歳。

岡村 文子 1898年10月24日長野に生まれる。オペラ歌手から1922年松竹蒲田に入社、同年の「悪魔の崖」に初出演したが、その後一時映画界から離れ、37年に松竹大船に再入社して活躍。38年の「愛染かつら」ではヒロインをいじめる佐藤彌長役を熱演、その後も48年久松静児監督、54年木村恵吾監督、62年中村登監督等の「愛染かつら」で同役を演じ続けた。1976年8月15日死去。享年77歳。

Stanley Baker 1927年2月28日、ウェールズの炭坑夫の息子として生まれる。14歳で映画デビューに続いて舞台にも立ち、戦後脇役として本格的に映画に出演、アクション映画の佳作「スピードを盗む男」(57)から主役を演じ、「ナパボンの要塞」(61)、「エヴァの匂い」(62)、「栄光への賭け」(70)など、アクの強い男性的な役柄に本領を発揮した。1976年6月28日死去。享年50歳。

Jacques Prevert 1900年1月4日生まれ。

とのコンビに秀作が多い。作曲家ジョゼフ・コスマと作ったシャンソンも数多くある。1977年4月11日逝去。享年77歳。

近衛 十四郎 1916年4月10日新潟生まれ。戦前に市川右太衛門門下から亜細亜映画「血煙り荒神山」でデビュー、戦後は松竹から東映に移り、第一期東映黄金時代の時代劇に大活躍した。特に「柳生十兵衛シリーズ」は彼の代表作となり、殺陣のうまさでは定評があった。俳優松方弘樹、目黒祐樹の二児がある芸能一家でもあった。1977年5月24日死去。享年61歳。

Roberto Rossellini 1906年5月8日ローマに生まれる。豊裕な家庭環境の中で少年時代から短篇の記録映画ととりくんだ。41年に長篇劇映画第一作“La Nave Bianca”を共作して注目された。戦時中も4本の劇映画を監督したが、連合軍によるローマ解放と同時に活動を開始した「無防備都市」(45)が発表されるや、レジスタンスとローマ市民の苦難の日々をとらえた荒々しいドキュメンタリー・タッチが注目を浴び、イタリアン・ネオリアリスムの誕生を告げる作品となった。翌年「戦火のかなた」を発表するに及んで決定的な名声を得た。そして「ドイツ零年」(48)を含めて彼の〈戦争三部作〉といわれた。50年には女優イングリッド・バーグマンと大恋愛の末結婚し、「ヨーロッパ1951」(52)を発表、「ロベレ将軍」(59)、「ローマで夜だった」(60)それにいくつかの歴史時代ものをテレビ映画として発表。68年に国立映画実験センター所長に就任したが、1977年6月3日死去。享年71歳。

筑波 雪子 1907年6月10日生まれ。24年新橋で芸者をしていて時スカウトされて松竹蒲田に入社、島津監督の「城ヶ島の雨」のヒロインに大抜擢され、美人女優として活躍。28年松竹を退社して新派などの舞台に立ち、戦後は元貴族院議員寺田基吉氏と結婚して話題となり、また吾妻歌舞伎に参加したりした。1977年6月8日死去。享年69歳。

Fritz Lang 1890年12月5日オーストリアのウィーンに生まれる。ウィーン美術学校を卒業後パリやミュンヘンで修業し、第一次大戦で負傷して入院中脚本の執筆にあたった。間もなくドイツの大プロデューサー、エーリヒ・ポマーと出会い、1919年デッカ社の監督となり、「死滅の谷」(21)、「ドクトル・マブゼ」(22)、「ニーベルンゲン」(24)、「メトロポリス」(26)、「スピオーネ」(28)、「月世界の女」(29)とサイレント期の秀作を発表、続いて「M」「怪人マブゼ博士」(32)を世に送り出したが、ナチ勢力の台頭と共にヒトラーの協力を拒否してベルリンを逃げ出し、フランスで「リリオム」(33)、「アメリカに渡って」(激怒) (36)、「暗黒街の弾痕」(37)以下56年まで20本程発表した。以後西独で3本監督して、63年J=L・ゴダールの「軽蔑」に出演して映画論を談じて人々を驚かせた。1976年8月2日死去。享年86歳。

Fritz Rasp 1891年5月13日レバノンのペイルートに生まれる。ミュンヘンで演劇の訓練を受けて舞台に立つ。映画には20年頃から出